

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

社会で活躍できる人間の育成を通して、地域から信頼される学校をめざします
 ～ 4つの活動(『学習活動』『部活動』『自治活動』『地域連携活動』)を大切に、生徒の人間力を高めます ～
 「徳性・知能・体力」ともにすぐれ、誠実、明朗で友愛と気力に満ちた人間の育成に努めるとともに、生徒一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばし、社会で活躍できる人間の育成を通して、地域から信頼される学校づくりをめざす。

そのために、

「確かな学力」への取組みを通して、学習習慣の定着を図るとともに、基礎的な力の定着と自ら学び考えることのできる応用力を養成する
 「豊かな心」を育む活動を通して、自尊感情を高め、他者を理解し共感できる力を涵養する
 「キャリア教育」を全ての教育活動の中で展開することを通して、明確な将来設計を描き、目標に向かって努力し続ける態度を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路実現の支援(授業をはじめとする『学習活動』)

(1) 授業力の向上と確かな学力の育成

ア 授業に集中する環境づくりを進める。校内授業見学の充実を図ることにより、教員の授業力を高める

イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりを進める

ウ 社会で自立するために必要な基礎学力を育成するとともに、生徒の学習習慣の確立を図る

学校教育自己診断生徒項目の学習・授業に関する項目の肯定的評価平均を、(H29:68,H30:70,R1:66%) 75%(4年度)

「学校経営推進費」による『進路学習室』の機能を更に生かし、同生徒項目「視聴覚機器等の活用」を、(H29:52,H30:62,R1:69%) 75%(4年度)

(2) カテゴリー制の充実

ア 「人文ステップアップコース委員会(JSI)」が中心となり、ステップアップコースの一層の充実とともに、カテゴリー制全体の充実を図る

イ 「学力生活実態調査(以下「実態調査」)」を活用し進路意識の醸成を図りながら、カテゴリー選択指導を充実させる

ステップアップコースの大学進学希望者中、自己の進路実現に向けて一般入試まで努力する生徒の割合を、(H29:25,H30:37,R1:37%) 45%(4年度)

(3) キャリア教育の推進

ア 「職業を知る」「地域を知る」「自分を知る」活動を通して、社会で生き抜くための力を身に付けるとともに、将来の目標を持たせることができるよう、「総合的な学習(探究)の時間」を軸に、3年間を見通したキャリア教育を展開する

イ 生徒の希望する進路の実現に向け、生徒への支援を充実させるとともに、『進路学習室』の機能をより一層活用する。

学校教育自己診断生徒項目、保護者項目の進路指導に関する項目の肯定的評価平均を、(H29:75,H30:76,R1:76%) 82%(4年度)

学校教育自己診断教職員項目の進路「きめ細かい指導」・「組織連携」関係項目の肯定的評価平均を(H29:67,H30:65,R1:58%) 70%(4年度)

2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進

(1) 部活動、生徒会や各種行事等の自治活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導(『部活動』『自治活動』『地域連携活動』)

ア 部活動への加入を一層促進するとともに、生徒会主催のボランティア活動や地域連携活動の充実を図るなど、生徒の主体性や協調性を育む

イ 「学校生活協議会(わくわく委員会)」の運用を図りながら、自分たちで規律ある生活を送り、学校をよくし後輩に伝えていく意識を醸成する

1、2年生の部活動加入率(H29:60,H30:60,R1:64%) 70%(4年度)、登校遅刻数(H29:1169,H30:760,R1:728) 現状を維持する(4年度)

学校教育自己診断生徒項目「生徒会活動は活発である」の肯定的評価を、(H29:60,H30:57,R1:61%) 67%(4年度)

生活指導に関する項目の肯定的評価を、(H29:64,H30:63,R1:56%) 65%(4年度)

(2) 教育相談体制の充実

ア 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくり、環境整備の充実を図る

イ 様々な事象に対する円滑かつ確実な対応ができるよう、校内組織に加え、スクールカウンセラーや学校医等、各関係機関との連携を生かす

学校教育自己診断生徒項目の教育相談、支援に関する項目の肯定的評価平均を、(H29:74,H30:72,R1:71%) 77%(4年度)

学校教育自己診断保護者項目「気軽に相談できる」の肯定的評価平均を、(H29:71,H30:64,R1:65%) 74%(4年度)

3 学校の組織力向上をめざした取組み

(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化

ア 生徒情報を中心とする学校情報の共有と、学年・分掌等の組織間での円滑・有機的な連携を図る

イ 学校運営改善に向け、「将来構想委員会」及び「4つのチーム」を軸に、組織・教員間で連携・協働し各アクションプランを推進する

(「4つのチーム」: 学力・授業力向上 学校行事・部活動活性化 交流活動 広報・学校説明会)

ウ 各種会議等の在り方について改善を図るとともに、「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理を推進する

学校教育自己診断教職員項目の診断「組織連携・運営改善」に関する項目の肯定的評価平均を、(H29:60,H30:58,R1:51%) 65%(4年度)

(2) 経験年数の少ない教員のOJTの推進

ア 若手教育力育成の「さみどり塾」、研究授業の定例化や、「伝え合い・学び合い」の取組みをすすめ世代継承の活性化を図る

学校教育自己診断教職員項目の診断「経験の少ない教職員育成の体制」に関する項目の肯定的評価を、(H29:50,H30:43,R1:39%) 55%(4年度)

(3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化(『地域連携活動』)

ア 部活動や体育祭、文化祭での交流等による中高・地域連携、大学からの学生派遣(学習支援)や交流活動等による高大連携を一層推進する

イ ホームページの更新と、ホームページ等を通じた学校の取組みについての発信を強化する

学校教育自己診断生徒項目の「授業や部活動などでの校外連携」の肯定的評価を、(H29:50,H30:51,R1:49%) 60%(4年度)

同生徒・保護者両項目の「学校のホームページをよく見る」の肯定的評価を、(H29:21・23,H30:28・31,R1:23%・35%) 35%・45%(4年度)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1、生徒向け診断について</p> <p>(1) 診断 25 項目のうち、肯定的評価(「よくはてはまる」と「ややあてはまる」)を合計した今年度の数値(%)についての経年比較から、次の3つに分類する。</p> <p>(A) 昨年を下回る・・・2項目 (B) 昨年を上回るが一昨を下回る・・・2項目 (C) 昨年と一昨を共に上回る・・・21項目</p> <p>(C)が全体の84%を占めることから、診断結果全体としては良好と考える。以下に、上記の(A)・(B)に当たる項目について分析する。</p> <p>(2) 昨年を下回るもの(2項目)</p> <p>学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている。 (昨年65%・今年64%)今年度はコロナ対応で避難訓練未実施の影響も考えられるが、学校安全の根幹に関わることであり、生徒への情報周知方法を検討する。 授業や部活動、学校行事などを通して、地域の人々や他の学校と交流する機会がある。 (昨年49%・今年48%)今年度はコロナの影響で、部活動の制限や地域連携行事等が中止となった等の影響が考えられる。オンラインの活用等も含めた交流方法を検討する。</p> <p>(3) 昨年を上回るが一昨を下回るもの(2項目)</p> <p>学校の施設や設備、学校で使う道具や器具がこわれたときは、すぐに修理したり取り替えたりしてくれる。(一昨年60%・昨年56%・今年58%) 教育活動への必要度を精査して優先度の高いものから取り組む。今年度末までに全普通教室に天井吊プロジェクターを設置予定。 学校生活についての先生の指導には納得できる(一昨年53%・昨年45%・今年52%) 日々の教育活動において生徒との対話を重視することを今後の課題とする。</p> <p>2、保護者向け診断について</p> <p>(1) 診断 25 項目のうち、肯定的評価(「よくはてはまる」と「ややあてはまる」)を合計した今年度の数値(%)についての経年比較から、次の3つに分類する。</p> <p>(A) 昨年を下回る・・・2項目 (B) 昨年を上回るが一昨を下回る・・・5項目 (C) 昨年と一昨を共に上回る・・・18項目</p> <p>(C)が全体の72%であることから、診断結果全体としては良好と考える。以下に、上記の(A)・(B)に当たる項目について分析する。</p> <p>(2) 昨年を下回るもの(2項目)</p> <p>この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある(昨年72%・今年64%) 今年度はコロナの影響で学校行事への参加を制限した影響が考えられる。オンラインの活用等も含めた参加方法を検討する。 学校が保護者に出す連絡や案内文書は適切である(昨年81%・今年78%) 管理職による内容確認を徹底する。また、文書が生徒から保護者に届かない場合もあることから、HPや連絡メールの利用をより一層進める。</p> <p>(3) 昨年を上回るが一昨を下回るもの(5項目)</p> <p>この学校の部活動は活発である(一昨年70%・昨年61%・今年69%) PTA活動については活発である(一昨年60%・昨年56%・今年56%) この2項目はコロナの影響と考えられる。次年度は共に活動を促進していく。 地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に行動マニュアルが知らされている。(一昨年85%・昨年67%・今年72%) 学校は、防災や防犯、事故防止に配慮し、施設・設備の点検を行っている。 (一昨年68%・昨年61%・今年65%) 生徒向け診断の(2)と関連する。防災マニュアルの内容を再度点検したうえで、周知を早急に進める。 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる (一昨年68%・昨年62%・今年66%) 生徒のSNS使用に関するトラブルへの対応が課題となっている。今後も生徒への指導と教員の研修を強化していく。</p> <p>3、教員向け診断について</p> <p>診断 39 項目のうち、肯定的評価(「よくはてはまる」と「ややあてはまる」)を合計した今年度の数値(%)についての経年比較から、次の3つに分類する。</p> <p>(A) 昨年を下回る・・・3項目 (B) 昨年を上回るが一昨を下回る・・・5項目 (C) 昨年と一昨を共に上回る・・・31項目</p> <p>(C)が全体の79%を占めることから、診断結果全体としては良好と考える。以下に、上記の(A)・(B)に当たる項目について分析する。</p> <p>(2) 昨年を下回るもの(3項目)</p> <p>この学校では生徒指導において家庭との連携ができていない(昨年82%・今年80%) 体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。(昨年90%・今年88%) 両項目とも、数値そのものは低くなく、減少幅もわずかではあるが、生徒指導の根幹に関わることであるので、次年度は一層の改善を図る。 校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている(昨年62%・今年60%) 今年度はコロナ対策による臨時休校・分散登校等の予定変更が多く、年間を通じた計画作成が困難だった。次年度は、年度当初に必要な研修を精査して年間計画を作成・提示する。</p>	<p>【第1回】書面開催(開催日8月31日)</p> <p>・主に令和2年度学校経営計画と、今年度新たに制作した学校案内冊子『丘の上に、夢がある』についてのご意見、ご提案を伺った。</p> <p>1、令和2年度学校経営計画について</p> <p>・めざす学校像について、4つの活動を軸に、地域から信頼される学校をめざすことが重要。近隣中学校からの生徒が大半であるので、自治会活動や地域連携として清掃・美化活動などを頻繁に行い、高校と地域の距離を身近にすべき。また、自転車通学生徒が多く、通学路に国道や住宅地など交通事情の危険な所が散在するため、交通ルール・マナーを十分に守る意識向上の指導も必要。これらが、定員割れしない「行きたい、行ってみたい」魅力あふれる学校につながる。</p> <p>・中期計画について、新たな挑戦を模索する項目、昨年度以上の成果をめざす項目、目標の維持、あるいは目標の引き下げがなされている項目に分かれる。それぞれの目標実現のための具体的方策をどう修正したのかを明確にすることが必要。</p> <p>・生徒会(わくわく委員会)の活動を更に充実させ、生徒たちが学校づくりに参加・運営する意識を育てるべき。</p> <p>・「自己探究」(毎日10分の100字作文、1単位の授業)はいい取り組みでPRすべきと思う。</p> <p>2、学校案内冊子『丘の上に、夢がある』について</p> <p>・表紙のインパクトも含め、視覚的になじみやすくセンスがいい。デザインも「丘の上」「夢」を感じさせる優しくやわらかなものである。</p> <p>・生徒が前面に出ており、中学生の心にも響くのではないかと。</p> <p>・各ページにあるメッセージがまず見るものをとらえ、学校紹介のみならず、進路や社会において大切なことが書かれている。</p> <p>・学校へのアクセス案内が誤解を招き分りにくい(修正済)</p> <p>・新しい学校紹介動画も好評、今後SNS上での広報も展開すべき。</p> <p>【第2回】11月6日(金)</p> <p>・PTA(保護者)がより一層学校運営に関わることを重要と考える。そのために、保護者が生徒と共に参加できる行事を増やしてほしい。そのことが地域における広報にもつながると考える。</p> <p>・フレッシュマンキャンプについて、新入生に対して先輩から「高校生活とは何か」を伝える行事を実施することを通して、在校生全体が将来を考える機会となるキャリア教育の一環として取り組んでおり、その実施過程で大学との連携や社会性の育成をめざしていることが理解できた。今年の1年生にはコロナの影響で入学直後にできなかったことから(11/21実施)10月の学校説明会で中学生対象に実施したことはよかった。参加者の感想文で「他校と迷っていたが、長尾高校に行きたいと思った。」という感想もあり、運営に関わった本校生徒も、受け身ではない主体的達成感を持ってたと思う。</p> <p>・今日、バス停からこの学校に来るとき、校門の外でも中でも生徒が挨拶してくれて、気持ち良かった。社会につながっていきけるか。</p> <p>・キャリア教育で未来につながっていきけるかが大切。一人ひとりが主体的に動かないといけない。それぞれで子どもをこっちに向かせる共通したものが多彩に出ている学校の取り組みである。それぞれを巻き込みながら、大きく展望を持ちながら、良く変貌するのではないかと思う。</p> <p>・コロナへの対応でオンラインを利用することが増えたが、オンラインだからこそのこともある。コロナが収束したらオンラインは終わりではなく、従来のものとのハイブリット型で続けられるものは続けていきたい。先生も今まで勉強してきたことでは、太刀打ちできない。学び続けることが必要。</p> <p>・定員割れについて、SNS・オンラインやマスコミ・ミニコミも使って熱心な取り組みをしていることなど、教員全員が危機感を持って一生懸命してきたことが生徒に伝わったことで、オープンキャンパスの参加人数増加につながった。</p> <p>・社会に出たら社会保障が必要になるので、高校でもしっかり教えてもらいたい。</p> <p>【第3回】書面開催(開催日3月5日)</p> <p>1、令和2年度学校教育自己診断結果について</p> <p>・生徒、保護者、教職員とも多くの項目で前年を上回る評価となったことは、教職員の努力の成果である一方、要因の分析が必要。</p> <p>・特に教員の結果の数値に飛躍的な向上がみられる。第2回学校運営協議会における教員方の発言がたいへん前向きで、会議そのものも明るいトーンですすめられていたことが、今回の数値にも表されていると感じた。</p> <p>・生徒、保護者の結果は、昨年の落ち込みも割り引くと教員ほどの変化は見られないが、授業に関する項目をはじめ、生徒へのきめこまかな対応に関する項目など、要所要所に、教員側の変化の影響と考えられるような向上の兆し(教員の評価の変化とパラレルな変化)が見て取</p>

<p>(3) 昨年を上回るが一昨を下回るもの(5項目)</p> <p>施設・設備について日常的に点検や管理が行われている(一昨年64%・昨年54%・今年60%)</p> <p>事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。(一昨年75%・昨年39%・今年68%)</p> <p>生徒向け・保護者向け診断でも挙げられている防災体制の整備と合わせて、次年度は校内安全管理全般について意識的に取り組みを進める。</p> <p>この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。</p> <p>(一昨年75%・昨年59%・今年70%)</p> <p>次年度は教育相談体制の充実、関連する教員研修の実施等に取り組む。</p> <p>年間の学習指導計画について各教科で話し合っている(一昨年75%・昨年64%・今年73%)</p> <p>次年度は、成績不振者への対応と観点別学習評価の導入への取り組みを組織的に進める。</p> <p>校種間、地域連携を積極的に進め、本校の教育活動に活かしている。(一昨年68%・昨年51%・今年58%)</p> <p>生徒向け診断(2)と同じく、次年度はコロナの影響があってもオンラインの活用等も含めた交流方法を検討する。</p>	<p>れる。たいへんいい兆しで期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響による評価の変化と思われるものもあるが、生徒の項目18(指導に納得)、22(非常変災対応)、23(交流)については、状況が気になるところです。 2、令和3年度学校経営計画について(番号は計画に示されたもの) <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に令和2年度の振り返りをもとに作成されていることが良くわかり、問題ないと思います。 ・「めざす学校像」「中期の目標」「本年度の取組内容」が絞り込まれて再構築され、目標が具体的なものになるとともに、ゴールに向かう手法やアクションがよくみえるようになった。数値目標の設定も妥当性が高まったと評価できる。全体として、ビジュアルなビジョンになったと高く評価しています。 ・先生方の前向きな取り組みとともに、ICTや地域・外部の教育力の活用の工夫がかみ合えば、さらなる展開が望めるのではないかと感じました。 ・1-(1)教員の授業力の向上について、学校教育自己診断生徒対象項目「他の先生が授業を見学に来ることがある」の肯定的回答が本年度飛躍的に上昇し、生徒自身が実感するほどの取組みだったことは素晴らしい。次年度もこのような積極的な取組みを期待する。 ・2-(1)アの「フレッシュマンキャンプ」を充実させ、対象を中学生に拡大して中高大の連携へと幅を広げる。 ・2-(1)イの「わくわく委員会」を更に充実させ、委員会を通じ情報交換と情報の共有化の機会を増やし、生徒自身で何らかの気づきを実行に移し、自らつくり出す手法のきっかけになってほしい。 ・2-(4)「校内防災体制の整備充実」は、地震等の災害は最近各地で発生しており、生徒および保護者の安心につながる。 ・2の「安全安心な学校」に関連して、春秋の全国交通安全週間中に、通学経路の主要なポイントを定め、学校・生徒・保護者等と協力して啓発運動を実施する。 ・3-(2)について、多くの生徒達が以下に示す色々な形で地域コミュニティ団体、近隣自治会、地域企業、枚方市、などと連携し、生徒の自立性を育てると共に学校のPRに繋げてはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> 夏祭り等の各種イベント(ボランティア活動・ブース出展等) 出前授業や体験学習の実施(生徒の学習意欲向上) 障がい者施設との交流(施設の方々と生徒の双方に有意義な活動)
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標(R1 R2) 学校教育自己診断結果:肯定的評価	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現の支援	<p>(1) 授業力の向上と確かな学力の育成を図る</p> <p>ア 授業に集中する環境づくり</p> <p>イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり</p> <p>ウ 生徒の基礎学力の育成、学習習慣の確立</p> <p>(2) カテゴリー制を充実させる</p> <p>ア ステップアップコースの検証とカテゴリー制全体の充実</p> <p>(3) キャリア教育を充実させる</p> <p>ア 年間目標の具体化と検証</p> <p>イ カリキュラムの充実・改善</p> <p>ウ 「学校経営推進費」による『進路学習室』の更なる活用</p>	<p>(1) 生徒とのコミュニケーションを生かし、授業力・学力向上に、学校をあげて取り組む。</p> <p>ア・授業への集中力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内の環境整備、準備と切替の徹底 <p>イ・授業見学の活性化、優れた取組み(GP)の共有化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科内研修等、教員間の研鑽を図る。 ・視聴覚機器、図書館を活用した授業の実践 <p>ウ・『自己探究』の充実、評価を円滑に進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ツールや週末課題等の活用 ・補習、特別課題等による徹底した指導、支援 <p>(2) 学力の定着度や伸び等、データをもとに的確なアドバイスを計画的・継続的に行う。</p> <p>ア・模試、「学力生活実態調査(実態調査)」の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理系進学対応の強化 ・JSIの効果的運用と共通理解 <p>(3) ア 目標意識や職業観を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「職業を知る」:卒業生、企業による講演会等 ・「地域を知る」:職業見学、体験、ボランティア等 ・「自分を知る」:自己理解、自分史づくり等 <p>イ 「総合的な学習(探究)の時間」や「道徳教育」等を含む新カリキュラムの具体化</p> <p>ウ・進学講習、面接指導等の更なる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得(英語、情報、数学、漢字、ニュース検定等)に向けた講習等、取組みの推進 ・プレゼン等、授業での更なる活用 	<p>(1) アイ・【生徒】「学習・授業関係」(66% 70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【生徒】「他の先生が授業を見る」(55% 60%) イ【教職員】「検討機会」(51% 56%) 【生徒】「視聴覚機器を使う授業」(69% 72%) 【教職員】「図書館活用」(46% 50%) ウ・円滑実施、更なる工夫、改善 ・学習時間の増加、各教科間の調整 <p>(2) 「実態調査」全体・各教科の1アップ以上をめざす</p> <p>ア 大学進学で一般入試まで努力する生徒(31% 35%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実態調査」平均B以上・伸び ・実情等の報告と共有化(職会等) <p>(3) ア 系統的な計画の具体化</p> <p>【生徒】【保護者】進路関係(生:78% 80%、保:74% 78%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規+企画充実2件以上と評価 <p>イウ 運用と具体化、活用状況</p> <p>ウ【教職員】進路「きめ細やかな指導」・「組織連携」平均(58% 63%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英検」受検者数・準2級以上合格率(144・30% 140名程度・30%維持) 「情報」受検者数・合格率(28・82% 30名程度・80%維持) 	<p>(1) アイ・【生徒】「学習・授業関係」70%()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【生徒】「他の先生が授業を見る」76%() イ【教職員】「検討機会」73%() 【生徒】「視聴覚機器を使う授業」78%() 【教職員】「図書館活用」68%() ウ・オンライン機器による学習課題配布() ・学習指導員による個別補習実施() <p>(2) ア・大学進学で一般入試まで努力する生徒23%()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実態調査」は平均Bに届かず() ・職員会議で実情報告、将来構想委員会での分析報告実施() <p>(3) ア、【生徒】【保護者】進路関係</p> <p>生徒84%()、保護者79%()</p> <p>イ・1年生「総合的な探究の時間」で新たに演劇プログラム(10時間)を実施()</p> <p>イウ・コロナ対応の影響で体験行事や面接指導等は実施に大きな制約があった。</p> <p>ウ【教職員】進路「きめ細やかな指導」・「組織連携」平均67%()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英検」受検者数45名、準2級以上合格率33%、「情報」受検者数5名、合格率100%、共にコロナのため受検者減(-) ・数研(合格者/受検者)、2級(1/3)、準2級(10/16) 今年度新規実施()

府立長尾高等学校

<p>2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進</p>	<p>(1) 部活動、自治活動の活性化、規律ある学校生活の確立を図る ア 部活動、生徒会活動の活性化 イ 「わくわく委員会」の運用、遅刻指導、清掃活動推進 ウ 制服指導の充実</p> <p>(2) 教育相談体制を充実させる ア 情報の共有や体制づくり、環境整備や研修の充実 イ 「いじめ防止」をはじめとする人権教育の充実</p> <p>(3) 交通安全指導、防災教育を充実させる</p>	<p>(1) 指導方針・内容の共通理解の徹底と共に、キャンペーン等、指導上の工夫を一層図る。 ・生徒の「理解と納得」を図る説明と指導 ア・「フレッシュマンキャンプ」の効果的運用 ・部活動加入の促進の更なる強化 ・勧誘活動、部活動の発信力向上(学校HP等) ・図書委員活動の更なる充実 ・生徒会執行部が主催、活躍する行事の充実 ・達成感や自己肯定感を味わえる活動の実現 イ・「わくわく委員会」の効果的運用 ・遅刻の対話指導充実、登校遅刻数の現状維持 ・清掃の徹底強化、保健委員活動の活性化 ウ 制服指導に学校をあげて取り組む。</p> <p>(2) 教職員の意識向上と体制強化を図る。 ア 早期発見・対応に向けて指摘し合える体制づくり、「生徒支援委員会」の効果的運用 ・教育相談室の活用等、教育相談機能の充実 ・人権感覚に富んだ生徒への言葉かけ・対応 イ 「いじめ対応委員会」と各種会議、外部の関係機関との効果的な連携 ・いじめアンケート等の活用と対応の充実</p> <p>(3) 関係機関と連携した交通安全指導、防災避難訓練、マニュアルの更なる充実を図る。</p>	<p>(1) 【生徒】【保護者】「生活指導」 (生:56% 60%、保:66% 70%) ア・アンケート結果等から検証 ・部活動加入率(64% 67%)、1年は77%以上、HPの定期更新 ・新規取組又は企画改善2件以上 ・【生徒】「生徒会活動は活発」(61% 64%) イ・年間3回以上開催、運用評価 ・年間登校遅刻800程度(R1:726) ・【教職員】清掃関係(39% 43%) ウ 共通理解と統一した指導</p> <p>(2) ア「相談・支援関係」 【生徒】(71%以上)【教職員】(54% 60%) 【保護者】「気軽に相談できる」(65% 68%) イ【生徒】「いじめ等への対応」(68% 72%) 【生徒・保護者】「人権尊重」(69%・68% 72%・71%以上)</p> <p>(3) 【生徒・保護者】「防災関係」 (65%・67% 70%・72%以上) ・防災マニュアルの周知徹底</p>	<p>(1) 【生徒】【保護者】「生活指導」 生徒64%()・保護者75%() ア・フレッシュマンキャンプは11/21に1年生対象に実施。また10/31学校説明会で参加中学生80名に実施し約95%の満足度を得た。() ・部活動加入率63%、1年71%(-) コロナため活動が減少した影響あり。 ・文化祭、体育祭ともコロナ対応をしたうえで実施できた() ・【生徒】「生徒会活動は活発」68%() イ・わくわく委員会はコロナ対応のために2/13の1回のみ実施、参加したPTA・同窓会役員からは高評価を得て、次年度への継続開催を求められた。() ・年間登校遅刻630回() ・【教職員】清掃関係55%() ウ・指導方法、運用を見直している() (2) ア「相談・支援関係」 【生徒】75%()【教職員】70%() 【保護者】「気軽に相談できる」73%() イ【生徒】「いじめ等への対応」76%() 【生徒・保護者】「人権尊重」 生徒79%()・保護者72%()</p> <p>(3) 【生徒・保護者】「防災関係」 生徒64%()・保護者72%() ・コロナの影響で避難訓練が十分実施できなかった。次年度は特に生徒に対して防災マニュアルの周知徹底を図る。</p>
<p>3 学校の組織力向上をめざした取り組み</p>	<p>(1) 学校運営改善を実現する ア 学校情報の共有と、組織間での連携の充実 イ アクションプランの推進 ウ 「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理</p> <p>(2) 経験年数の少ない教員へのOJTを推進する ア 「さみどり塾」、研究授業の定例化 イ 世代継承の取組</p> <p>(3) 中高・高大・地域・PTA 連携と広報活動強化を図る ア 高大連携の充実 イ 中高・地域連携の充実 ウ ホームページの更新、発信強化</p>	<p>(1) ア・的確な「報・連・相・確認」の推進 ・各方針の共通理解と統一指導の徹底、協力 ・分掌等の業務、チーム分担の明確化 ・個人情報保護・管理のより一層の徹底 ガイドラインの理解徹底、環境整備 ・コンプライアンスに係る教職員の意識向上 イ・アクションプランの精選・重点化推進 ・改善に向けた前向きな提言の反映・採用 ウ・各種会議の計画的運用、効率化を図る ・統合ICTの活用、教材、案内文書等の共有 ・時間外在校時間が長い教職員への個別指導</p> <p>(2) ア・相互授業見学、OJTの活性化 ・「さみどり塾」等、校内研修の更なる充実 イ 全教職員が「学ぶこと、伝えること」いづれかを目標化する。</p> <p>(3) 地域連携、PTAの参画により充実 上記2(1)と連動 ・オープンキャンパスの充実、参加者の増大 ・広報ビデオや新リーフレット等の更新 ア 高大連携の更なる推進を図る。(大学生の学習支援・国際交流活動、研修依頼等) イ 中高・地域連携の推進を図る。(インターシップ受入、授業見学、部活動交流等) ウ 学校情報の発信強化を図る。 ・ホームページのコンテンツ充実、更新の定着 ・生徒・保護者への周知徹底、趣旨等の明確化</p>	<p>(1) ア 取組状況により検証 【教職員】「学校組織」(48% 52%) 【保護者・教職員】個人情報の管理(80%・46% 85%・55%) イ 進捗・達成状況により評価 ・「学校経営計画」等に反映 アイウ 【教職員】「組織連携・運営改善」 平均(51% 56%) ウ 【教職員】「会議の有効機能」 (28% 40%) ・会議日程を踏まえ案件の早期提出 ・学校安全衛生委員会、個別指導を毎月実施</p> <p>(2) アイ 意識付けの徹底 【教職員】「経験少ない教職員を育成する体制」(39% 43%以上) イ 自己申告票で全員が目標化、達成状況で80%以上</p> <p>(3) アイ 新規取組又は企画改善を少なくとも新たに2つは行う ・学校説明会等への参加者数(666 700以上) ・【生徒】「授業、行事等を通して校外と交流機会」(49% 55%) ウ 【生徒・保護者】「HPをよく見る」 (23%・35% 30%・40%)</p>	<p>(1) ア【教職員】「学校組織」68%() 【保護者・教職員】「個人情報の管理」 保護者93%()・教職員78%() イ・広報活動や学校説明会等の企画運営が大きく改善された() アイウ 【教職員】「組織連携・運営改善」 平均67%() ウ、【教職員】「会議の有効機能」60%() ・安全衛生委員会は毎月実施、個別指導は必要時に実施した()</p> <p>(2) ア・将来構想委員会と、さみどり塾による授業見学週間、授業改善グループディスカッションを実施() 【教職員】「経験少ない教職員を育成する体制」75%() イ・目標化100%・達成状況80%以上() (3) アイ ・学校説明会の内容は、運営全般への生徒参加、学校概要説明を生徒が担当、フレッシュマンキャンプ体験の実施、体験授業内容の変更、等の改革を行った。コロナの影響で実施回数や形態は昨年度と異なるが、10月に実施した学校説明会への中学生参加者は192名で、前年同時期開催より76名増加した。() ・本校公式YouTubeチャンネルを通して、広報や部活動紹介のビデオを公開() ・新たな学校紹介冊子を制作() ・【生徒】「授業、行事等を通して校外と交流機会」48%()、今年はコロナの影響で実施できないことが多かった。フレッシュマンキャンプの実施を通して摂南大学との交流を深めた。() ・近隣中学校への授業見学はコロナ対応で中止(-) ウ・【生徒・保護者】「HPをよく見る」 生徒30%()・保護者52%() ・中学生を意識したHP更新は実施済。卒業生の支援を受けて更に改修中。() ・本校公式のSNSを開設し、本校の教育活動をリアルタイムに発信する体制を構築。()</p>